



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

96.3. No. 4354

96春闘、正念場の国鉄労争 勝利へ、第4回支部代表者会議開催

動労千葉は、三月六日、第四回支部代表者会議を開催し、九六春闘勝利、正念場を迎えた国鉄闘争勝利に向けて闘う方針を確認した。

九六春闘をめぐる情勢は、昨年末の完全失業率が戦後最悪の三・四％―失業者数が二三〇万人を記録する中、「住専問題」での八三〇〇億円の税金支出、さらに、破防法団体解散適用発動への踏み込みなど、労働者・市民の怒りはすでに頂点に達しており、労働運動の新たな高揚局面へ向けた動きがはじまっている。

一方、国鉄闘争をめぐる状況も、「一〇年度の総括評価」＝「平成九年度問題」をめぐって大混乱をきたしている。二兆兆円の累積債務問題(国債への借替、年間利息の一般会計からの繰入れ、本州三社の負担増、消費税増分を当てる、鉄道利用税の新設などが報じられている)、三島会社―貨物会社の赤字転落問題、清算事業団の解散＝事業団職員二〇〇〇名の再雇用問題、年金一元化(JRの八七〇〇億円の「持参金」負担)問題等々、分割・民営化体制そのものが完全に失敗・破綻しているという事実がだれの目にも明らかになってきており、とくに「累積債務二兆兆円問題」は、「住専問題」の比を遥かに超え、国家としての存亡にかかわる問題となっている。

労働者の側から決着をつける春闘をこうした分割・民営化体制の

破綻は、JR総連革マルの存亡をも左右する問題となっている。

JR総連革マルは、この間日刊紙上でも明らかにしてきたように「資本の論理の前面肯定」「賃上げを否定するワークシェアリング論の展開」「食っていくための軍需生産の提唱」「国労の最後の解体」を叫びまわっている。JR総連革マルのこうした路線は、雇用問題が深刻化して膨大な失業者が街に溢れようとしている状況や、危機と屈伏を深める連合の状況の中で、労働者の意識や労働運動をファシズムなどの危険な方向に流し込む役割をはたすものとなっている。

したがって、「JR体制」―JR総連革マルとの全面的な対決こそが、「平成九年度」問題をめぐって噴出する大変動に、清算事業団闘争をはじめとした労働者の側からの決着をつける最大の課題となっているのである。

会社間格差粉砕！ ストライキで闘おう

こうした状況の中で闘われる今九六春闘をめぐる状況は、まさに「平成九年度問題」と「JR総連革マル問題」がからんでの動きとなっている。とくに、貨物問題は、会社間格差問題もあり、春闘に大きな影響を及ぼす状況となっている。

動労千葉は、以上の状況を踏まえ、次のとおり九六春闘勝利へストライキを配置して闘うこととするので、全ての組合員は全力で闘いぬこう！

【闘いの配置について】
九六春闘を、「国鉄決戦の年、九六年」の第一波闘争と位置付け、第一波闘争を三月二日、第二波闘争を三月末と想定される回答日を焦点として、ストライキを配置して要求の実現をめざすこととする。

【闘いの課題】

- ① 九六春闘勝利！ 三八〇〇〇円の大増賃上げ獲得！
- ② 清算事業団闘争勝利！ 全ての被解雇者の解雇撤回！
- ③ 東日本五万人―貨物七千人体制粉砕！ 運転保安確立！
- ④ 強制配転者の原職復帰！ 不当労働行為根絶！

【具体的戦術】

- ① 第一波ストライキ
三月二日
*対象者 幕張電車区、習志野電車区的全組合員
- ② 第二波ストライキ
三月末(回答提示) 段階
*対象者 新小岩機関区、佐倉機関区の地上勤務者
- ③ 三月二日、第一波スト当日、一三時三〇分から、千葉市民会館において「九六春闘勝利―第一波スト貫徹―動労千葉総決起集会」を開催するので、勤務者以外全力で結集すること。

※ なお、三月一日、一八時から予定されていた「総決起集会」については二日に延期し、第一波闘争、第二波闘争に集中することとする。

【その他】

- ① 三月二日、一三時から、船橋中央公民館において「はね返そう大失業時代！とり戻そう団結！闘おう春闘集会」を開催する。
- 講演 岩井 章氏

15日の春闘は
22日金
13:30に
千葉市民会館